別紙様式１

令和元年度　学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	■共同研究推進　□若手教員研究支援　□個人研究支援 □研究推進重点設備　□研究推進設備修繕
プロジェクトの名称	小学校英語教科化に向けた指導・評価を軸としたモデル授業開発
報告者氏名・所属・職名	堀田　誠　北海道教育大学釧路校　准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	教職大学院（釧路校）　特任教授　梅本　宏之 札幌校　教授　萬谷　隆一 旭川校　教授　石塚　博規 札幌校　准教授　志村　昭暢 札幌校　特任講師　内野　駿介 附属函館小学校　教諭　伊藤　光 附属札幌小学校　教諭　西本　有希 附属旭川小学校　教諭　上野　健太 附属釧路小学校　教諭　坂下　眞美 附属旭川中学校　教諭　小野　祥康 附属札幌中学校　教諭　山口　修司 附属札幌中学校　教諭　柏　敬太 附属函館中学校　教諭　平石　暁史 附属釧路中学校　教諭　造田あかね 附属札幌小学校　副校長　堀口　基一 附属札幌中学校　副校長　木原　英俊 附属旭川小学校　副校長　米津　理臣 附属旭川中学校　副校長　西岡　裕英 附属釧路小学校　副校長　林　政孝 附属釧路中学校　副校長　小林　一博 附属函館小学校　副校長　五十嵐　義幸 附属函館中学校　副校長　白川　卓

研究内容及び成果の概要

1. 研究の目的と研究協議の経緯

本研究の目的は、中期目標１４および中期計画３０ともかかわり、平成25～28年までの附属学校８校と大学の共同による文科省研究開発の指定を受けて開発してきた指導法・評価法について、その成果を継承しつつ、大学・附属学校・教職大学院の共同で、これまでの成果を生かしてモデル授業を研究会・公開授業等で公開し、指導と評価の一体化を意識した授業改善の姿を提案した。具体的には、教育課程の段階的目標として開発したCan-do形式の到達目標群（小学校および中学校英語用）を活用して実際の授業として提案した。

Can-do による指導と評価の意義は、１）最終的なゴールを意識した到達目標群をもとに、授業や単元の構築をすること、２）授業場面において、あるいは評価場面において、具体的な到達目標について児童ができているかどうかを検証すること、３）児童は自律的に自らの学びを自覚し、制御できるようにすること、が挙げられる。これら３つの視点から授業を改善し、附属学校における公開授業に、明確な到達基準をそれぞれ設定し、その達成にむけた授業の取り組みを進めた。とりわけ到達したかどうかを見とる場面の工夫、規準の明確化等を意識した授業を構築した。

本年度は、附属学校教員と大学教員でまず研究協議を行った。8月6日の協議では、Can-doリストによる指導と評価のこれまで経過と成果のもちよりを行い、研究大会での授業公開についても検討した。以下の点で成果と課題があったことについて確認した。

研究協議を通じて明らかになってきた点は、以下の通りである。

●小学校における成果と課題については、

成果：

・Can-do の到達目標と照らし合わせて，児童は自らの学力をみて，記述している様子がある。
・言語活動と CAN－DO リストとの関連性をもたせて、授業作りをしている。
・成長や変容を、児童が理解できるようにできている。
課題：
・CAN－DO とパフォーマンスの関連性が確保されているかが今後の課題である。
・検定教科書での新規作成も課題となる。

●中学校における成果と課題については、
成果：
・自分に足りないところを具体的に見つけようとする姿勢が見られるようになってきた。振り返り（カード）などで，できることとできないことを認識できる。
・CAN－DO リストにより、授業実践とパフォーマンス評価へのつながりを意識できるようになる。
・4 月に一年間で目指す姿を示すことができる。指導者が見通しをもてる効果。どんなところが大事であるかを共有しながら指導ができる。
・CAN－DO リストは，作ること自体に意義がある側面がある。すなわち，教師にとって意義がある。
課題：
・簡略化できないかを検討中である。
・CAN－DO の知識理解への効果薄いのではないか？
・CAN－DOでの補えない評価は，暗唱，テストで確認をする。
・何のために，CAN－DO を生かすのか。どのような面に効果があるのかを明確にすることが必要となる。

2. 本年度のプロジェクトの成果報告

本プロジェクトの具体的取り組み・成果について報告する。

1） モデル授業の公開

モデル授業の公開を各附属学校において行った（7/5附属札幌小、7/26附属札幌中、6／21附属旭川小中、7/26附属函館小等）。その際、モデル授業を支えるものとして、Can-doリストによる指導と評価にかかわる取り組みについても研究協議で紹介した。その結果、参加者からも反響があり、たとえば、附属札幌小の授業公開および協議の参加者からは、「子供達も到達目標を全員（生徒と先生）で共有する必要があると思いました。そうすれば、生徒たちの授業へのモチベーションが上がると思います。」「授業の目標を黒板に掲示し最初に明確化すると全員で目標を共有できると思いました。」などのコメントがあった。さらに、附属札幌中の授業公開では、「具体的な目標がきちんと明確化されているため、自分がどういう力が必要なのかをその都度確認でき、長い見通しを持って勉強に取り組めると思います。」「生徒が目標を設定しやすいという点、先生側の評価のしやすさという点で、本資料を利用して取り入れてみたいと感じました。」「本日見せていただいた、何ができるようになったのか？それを見取るためのCan-doであり、（そういう）授業にシフトできるよう取り組みたいと思える一日でした。」といった反響があった。到達度目標に基づき指導と学習を進めることの意義について、モデル授業の参観と協議を通じて、本学の共同研究の成果の普及を促すことができたと考えている。

2）研究成果の普及

これらの成果は、12月1日に行われた本学の小中連携フォーラムにおいて附属学校教員による発表（当日発表資料参照）と、以下の参考文献に記した各校の紀要作成に反映されている。また附属函館小学校の伊藤光教諭による書籍執筆原稿（発行予定）にも、本プロジェクトの成果が報告されている。

3）大学（学部）での教員養成プログラムにおける研究成果の活用

プロジェクトでは、教員養成学部教員・教職大学院教員は、附属学校教員と協力して、Can-do リストによる指導と評価の考え方、またそのモデル授業を大学での小学校・中学校英語関連科目（小学英語および中学校英語科教育法等）においても活用してきた。大学での授業科目においては、文科省研究開発で開発した教材（Hello from Hokkaido）や Web 上の語彙データベース（スノーマン）を活用しており、教員養成プログラムの質的向上にも寄与している。

4）教職大学院での成果普及

教職大学院の講義において、Can-do による指導と評価の可能性と課題について本プロジェクトの成果について大学院生と共有した。多くの院生から感想が寄せられ、たとえば「Can-do リストについての内容が非常に印象的であった。英語科の評価方法として使われているようだが，Can-do リストの出来る感を育てるという考え方は各教科の評価（児童の自己評価）にも汎用性があるものだと感じた。」という声も聞かれ、

一定程度、現職教員に対しても知見を還元し、本プロジェクトの成果を普及することができた。

５）Web 上での成果普及

英語語彙・表現の共有型データベース Snowman（ピクトフォリオ）も
CELENET(http://celenet.info/pictfolio/において掲載している。
北海道教育大学附属学校共同開発教材　Hello from Hokkaidoは、本学運営SNSの
CELENET(https://celenet.info/に掲載している。

成果の公表の状況

【著書】

池田勝久他(2020)『小学校英語「5領域」評価事例集』教育開発研究所、160頁。
伊藤光(附属函館小学校)執筆担当「評価を軸とした話すこと（発表）に関わる指導の実践～目指す子供の姿を明確化する試みとして～」pp.41-45.

【学術論文】

萬谷隆一(2020)「「思考力・判断力・表現力」の指導と評価をめぐる５つのポイント」『小学校英語Can-Do及びパフォーマンス評価尺度活用マニュアル～思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力評価試案２～』pp.84-88.
北海道教育大学附属札幌小学校(2019)『研究紀要』西本有希「英語科における自覚から見つめる深い学びとは」pp.86-90.
北海道教育大学附属札幌中学校(2019)『研究紀要』柏敬太・山口修司「英語科で目指す「自ら判断・行動し、未来の創り手となる個の育成」pp.66-71.
北海道教育大学附属函館小学校(2019)『研究紀要』伊藤光「 I like my town.（自分たちの町・地域）」pp.60-63. 安彦友里恵「研究授業 4 年 外国語活動 「ゆめの給食メニューを作ろう！」」pp.56-59.
北海道教育大学附属旭川中学校(2019)『研究紀要』小野祥康，舘下真二「 英語で学ぶ必要感を高める授業の創造（最終年次）～「質問したい」，「質問できる」生徒を育む指導法の研究～」「新たな価値を生み出す学びのプロセスに関する研究」pp.1-7.

【研究発表資料】

北海道教育大学附属函館小学校教諭伊藤光「小学校における評価と教材について」2019.12.1（日）小学校英語・小中連携フォーラム発表資料

教育現場で活用可能な分野・教材等

英語語彙・表現の共有型データベースSnowman：CELENET(http://celenet.info/pictfolio/に所収)
北海道教育大学附属学校共同開発教材　Hello from Hokkaido。本学運営SNSの
CELENET(https://celenet.info/に所収)

配布又はダウンロード可能な資料	英語語彙・表現の共有型データベースSnowman：CELENET(http://celenet.info/pictfolio/に所収) 北海道教育大学附属学校共同開発教材　Hello from Hokkaido 本学運営SNSのCELENET(https://celenet.info/に所収)
問合わせ先	代表者：堀田　誠（北海道教育大学　准教授） 電　話：0154－44－3370 FAX　：無し mail　：hotta.makoto@k.hokkyodai.ac.jp